

高次脳機能障害者実態調査報告書

概 要 版

平成 20 年 3 月

東京都高次脳機能障害者実態調査検討委員会

はじめに

高次脳機能障害とは、病気や交通事故など様々な原因で、脳が部分的に損傷を受けたために生ずる、言語や記憶などの知的機能の障害をいいます。新しいことが覚えられない、注意力や集中力の低下、感情や行動の抑制がきかなくなるなどの精神・心理的症状が出現し、周囲の状況にあった適切な行動が選べなくなり、日常生活や社会生活に支障をきたすことがあります。また、外見からでは分かりにくいいため、周囲の理解が得られにくいといわれている障害です。

東京都は、こうした高次脳機能障害者の実数及び生活状況等を把握するための実態調査を実施するために、平成 19 年 10 月、東京都高次脳機能障害者実態調査検討委員会を設置しました。そして、本検討委員会において、平成 20 年 1 月、都内医療機関調査及び本人調査の 2 種類のアンケート調査を実施しました。

医療機関調査では、通院・入院・退院調査を行い、医療機関を利用している高次脳機能障害者の抱える様々な障害や、入院時の状況、退院後の行き先などを把握し、退院調査の結果を基に、都内の高次脳機能障害者の発生数及び総数の推計をしました。一方、本人調査においては、高次脳機能障害者の生活実態や公的支援の受給状況等の把握を行いました。

なお、本調査における「高次脳機能障害」とは、厚生労働省の診断基準に基づき、「脳の器質的病変の原因となる事故による受傷や疾病の発症の事実が確認されている」とし、その主たる内容は、東京都が作成した医療スタッフ向けの高次脳機能障害診断のためのマニュアル及び高次脳機能障害支援ハンドブックに準拠し、注意障害、失語症、記憶障害、遂行機能障害、失行症、失認症、半側空間無視、半側身体失認、地誌的障害、行動と感情の障害としました。また、対象者として、前述の診断基準に基づき、「先天性疾患、周産期における脳損傷、発達障害、進行性疾患」を原因とする者は除外いたしました。

本報告書を東京都に報告することができましたのは、短期間の調査にもかかわらず、多くの医療機関の方々、御本人・家族の方々、関係機関の方々の御協力により実施できたものであり、ここに改めて感謝申し上げます。

この報告書が、今後、東京都の高次脳機能障害者支援施策を進めていくための基礎資料として活用されることを期待します。

平成 20 年 3 月

東京都高次脳機能障害者実態調査検討委員会

会 長 渡 邊 修

目 次

はじめに

第1章 調査の概要

1. 調査の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
2. 調査の対象・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
3. 調査方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
4. 調査の実施状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

第2章 医療機関調査

1. 通院患者調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
2. 入院患者調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
3. 退院患者調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

第3章 高次脳機能障害者数の推計

1. 高次脳機能障害者の発生数の推計・・・・・・・・ 13
2. 高次脳機能障害者数の推計・・・・・・・・・・・・ 13
3. 高次脳機能障害者数の年齢分布の推計・・・・ 13

第4章 本人調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

第5章 実態調査のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

高次脳機能障害者の実数及び生活状況についての実態調査を実施し、東京都における今後の施策展開に資するための基礎資料とする。

(1) 医療機関調査

① 通院患者調査・入院患者調査

- ・ 医療機関を利用している高次脳機能障害者の状況を把握する。また、精神科病床に入院している高次脳機能障害者の実態を明らかにする。

② 退院患者調査

- ・ 高次脳機能障害者の発生数と都内の高次脳機能障害者数を把握する。
- ・ 入院時の状況、後遺症の状況（身体機能障害・脳機能障害・精神機能障害）、退院後の施設等の行き先を把握する。

(2) 本人調査

- ・ 急性期を過ぎた高次脳機能障害者の生活実態を把握する。
- ・ 公的支援の受給状況等について把握する。

2. 調査の対象

医療機関調査及び本人調査の2種類のアンケート調査を実施した。

(1) 医療機関調査

① 通院患者調査

- ・ 都内全病院（651病院）
- ・ 診療所（287診療所）
診療所の選定にあたっては、世田谷区・杉並区・八王子市・町田市のうち「脳神経外科」、「リハビリテーション科」、「神経内科」、「精神科」（内科を含む）の診療科目を標榜している診療所を対象とした。

② 入院患者調査

- ・ 都内全病院のうち精神科病床を有する病院（113病院）

③ 退院患者調査

- ・ 都内全病院（651病院）

(2) 本人調査

高次脳機能障害者＜医療機関調査対象病院及び診療所全てに1部ずつ配布＞。
（配布数：938人の家族）

3. 調査方法

(1) 医療機関調査

調査対象病院及び診療所に対して、調査用紙と資料を郵送配布し、回答は原則として主治医に依頼し、郵送にて回収を行った。

① 調査票の発送・回収

・ 発送：平成19年12月18日 回収：平成20年1月28日

② 調査期間

- ・ 通院患者調査：平成20年1月15日～21日の1週間
- ・ 入院患者調査：平成20年1月21日の1日
- ・ 退院患者調査：平成20年1月7日～20日の2週間

(2) 本人調査

調査対象医療機関を通じて資料を配布し、回答は原則として御家族に依頼して、郵送にて回収を行った。

① 調査票の発送・回収

・ 発送：平成19年12月18日 回収：平成20年1月21日

4. 調査の実施状況

(1) 医療機関調査

① 都内全病院

| 発送病院数 | 回収病院数 | 回収率 | 種別 | 回収票数 |
|-------|-------|-------|----------|------|
| 651 | 419 | 64.4% | 病院とりまとめ票 | 419 |
| | | | 通院調査票 | 827 |
| | | | 入院調査票 | 81 |
| | | | 退院調査票 | 206 |

② 診療所

| 発送診療所数 | 回収診療所数 | 回収率 | 種別 | 回収票数 |
|--------|--------|-------|-----------|------|
| 287 | 194 | 67.6% | 診療所とりまとめ票 | 194 |
| | | | 通院調査票 | 72 |

(2) 本人調査

協力依頼数：938人 協力者数：198人 協力回答率21.1%

第2章 医療機関調査

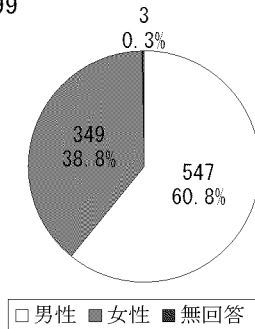
この章では、東京都内に在住しかつ東京都内の病院に通院及び入院している、高次脳機能障害者の性別や年齢分布がどのような状況にあるか把握し、また、対象者の高次脳機能障害に至った原因疾患や現在抱えている障害等を把握する。

1. 通院患者調査

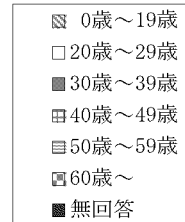
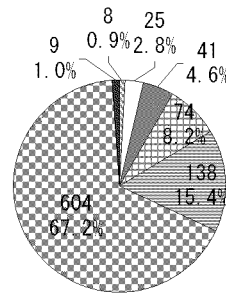
(1) 性別と年齢

性別は男性が547人（60.8%）、女性が349人（38.8%）であり男性の方が多かった。年齢別にみると60歳以上が604人（67.2%）が多かった。また、平均年齢は64.2歳であった。

■性別 n=899



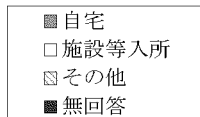
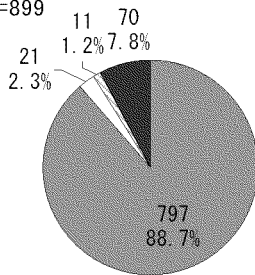
■年齢 n=899



(2) 現在の居所

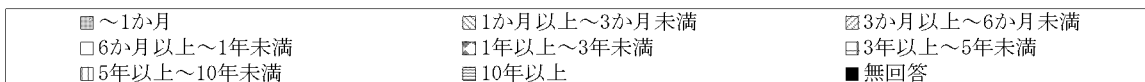
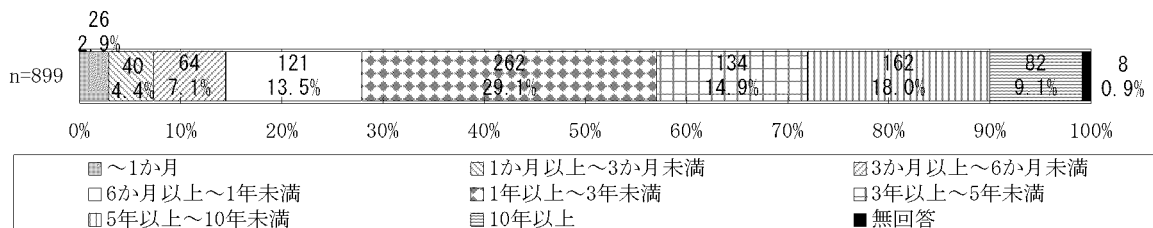
現在の居所は、自宅が797人（88.7%）であり約9割を占めた。また、施設等入所は21人（2.3%）、その他は11人（1.2%）であった。

■全体 n=899



(3) 通院期間

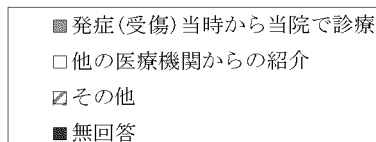
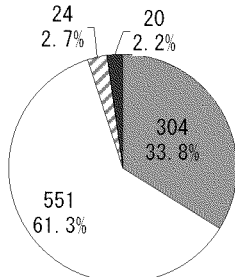
通院期間は、1年以上～3年未満が262人（29.1%）で一番多く、次いで5年以上～10年未満が162人（18.0%）であった。



(4) 来院経路

来院経路は、他の医療機関からの紹介が551人（61.3%）が一番多く、次いで発症（受傷）当時から当院で診療が304人（33.8%）であった。

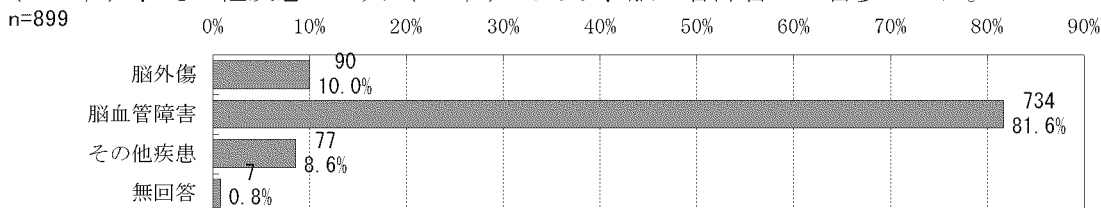
n=899



(5) 高次脳機能障害の原因疾患

① 高次脳機能障害の原因疾患

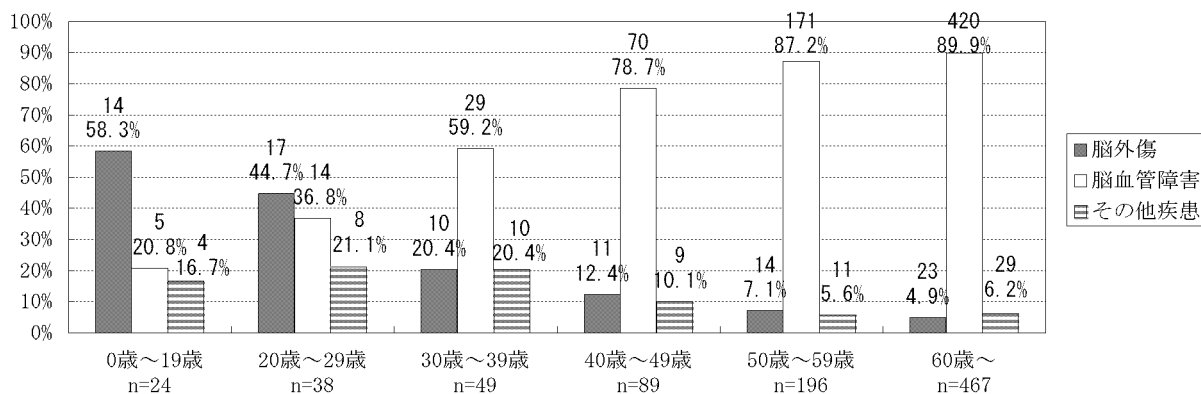
高次脳機能障害となった原因疾患は、脳外傷が90人（10.0%）、脳血管障害が734人（81.6%）、その他疾患が77人（8.6%）であり、脳血管障害が一番多かった。



※複数回答

② 年齢別の原因疾患

高次脳機能障害となった原因疾患を年齢別にみると、29歳以下は脳外傷が多く、30歳以上については脳血管障害が多かった。また、平均発症（受傷）年齢は59.2歳であった。

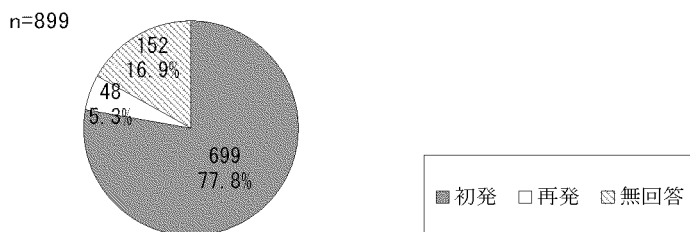


※原因疾患が複数の場合は、それぞれに人数をカウントしている。

※複数回答

③ 初発・再発

高次脳機能障害に至った原因である脳損傷の発症（受傷）は、初発が699人（77.8%）、再発が48人（5.3%）であった。

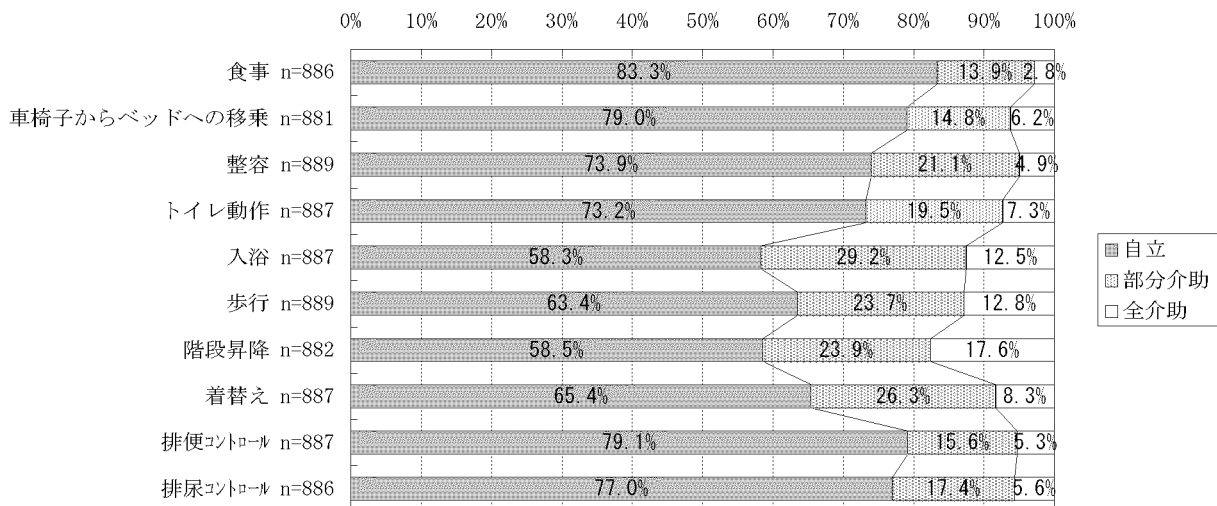


(6) 現在の状態

① 日常生活能力

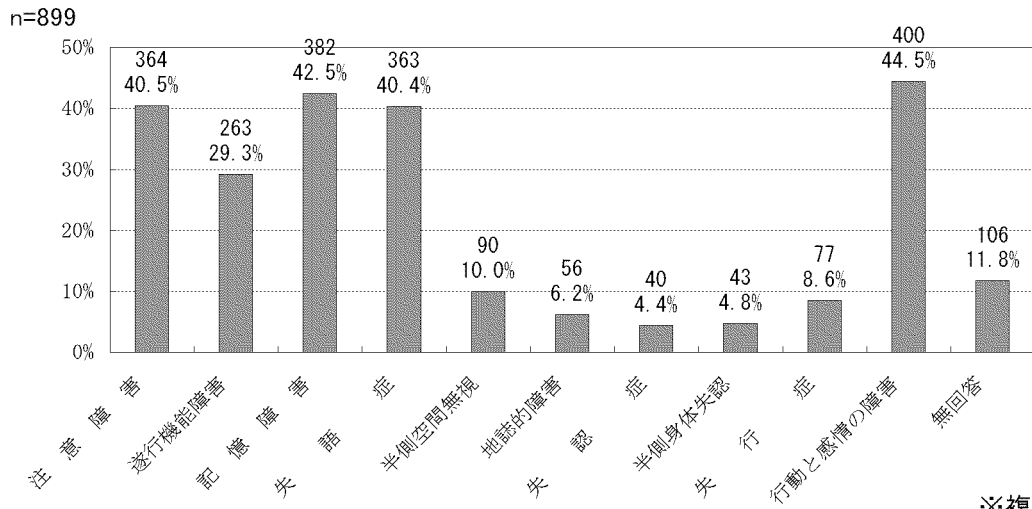
日常生活能力は、全ての項目において自立が半数以上を占めた。

■ 日常生活能力



②高次脳機能障害

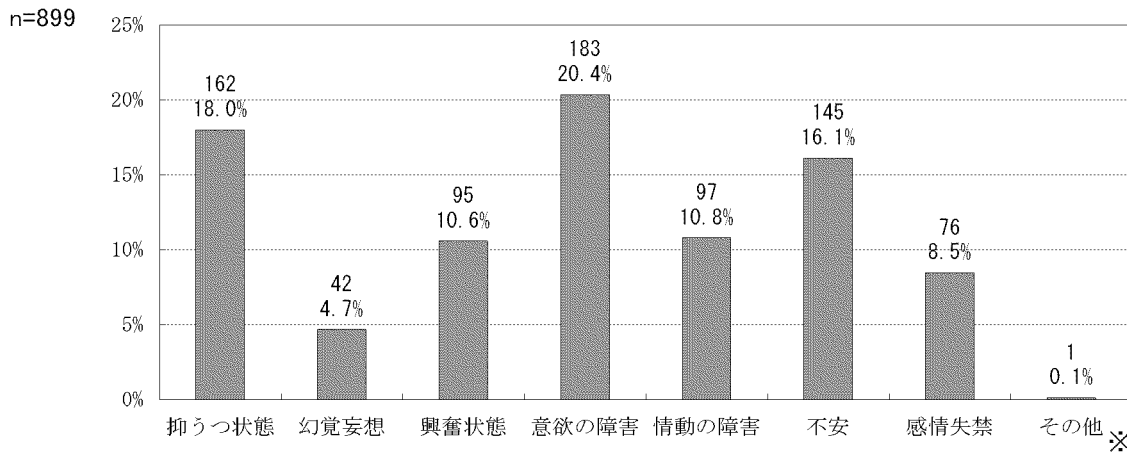
高次脳機能障害の内容として、行動と感情の障害が400人（44.5%）で一番多く、次いで記憶障害が382人（42.5%）、注意障害364人（40.5%）、失語症363人（40.4%）であった。



※複数回答

③行動と感情の障害

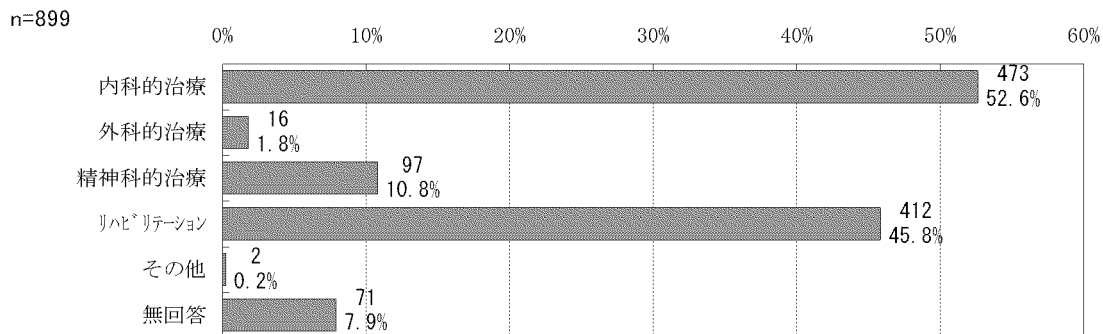
行動と感情の障害の内容として、意欲の障害が183人（20.4%）で一番多く、次いで抑うつ状態が162人（18.0%）であった。



※複数回答

(7)通院中の治療

通院中の治療は、内科的治療が473人（52.6%）で一番多く、次いでリハビリテーションが412人（45.8%）であった。



※複数回答

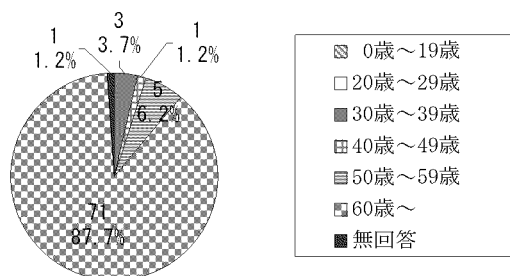
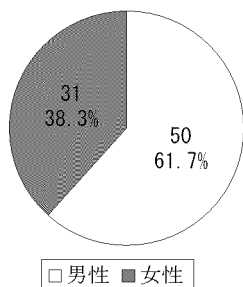
2. 入院患者調査

(1) 性別と年齢

性別は男性が50人（61.7%）、女性が31人（38.3%）であり男性の方が多かった。年齢別に見ると60歳以上が71人（87.7%）で多かった。また、平均年齢は69.7歳であった。

■性別 n=81

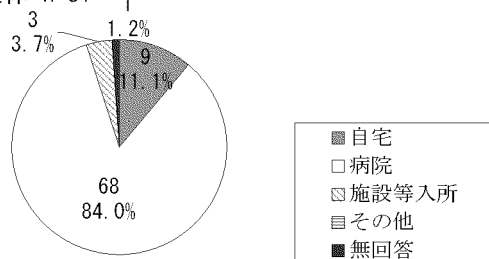
■年齢 n=81



(2) 入院前の所在

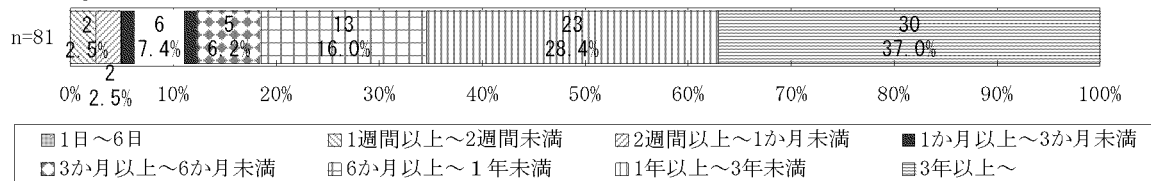
入院前の所在は病院が68人（84.0%）で一番多く、次いで自宅が9人（11.1%）であった。

■全体 n=81



(3) 入院期間

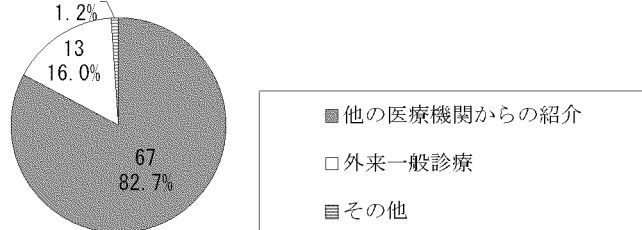
入院期間は3年以上が30人（37.0%）で一番多く、次いで1年以上～3年未満が23人（28.4%）であった。



(4) 入院経路

入院経路は他の医療機関からの紹介が67人（82.7%）で一番多く、次いで外来一般診療が13人（16.0%）であった。

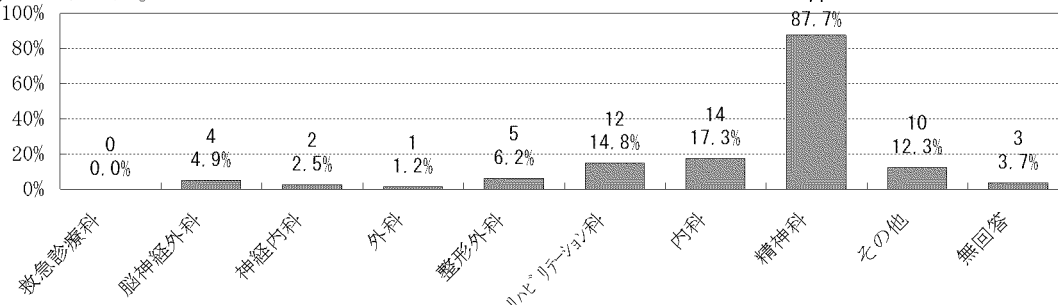
n=81



(5) 入院期間中に受診した診療科

入院期間中に受診した診療科は精神科が71人（87.7%）で一番多く、次いで内科が14人（17.3%）であった。

n=81

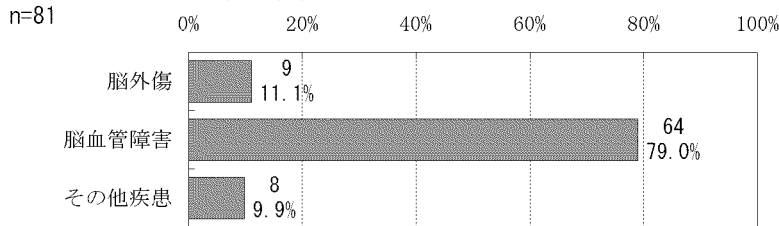


※複数回答

(6) 高次脳機能障害の原因疾患

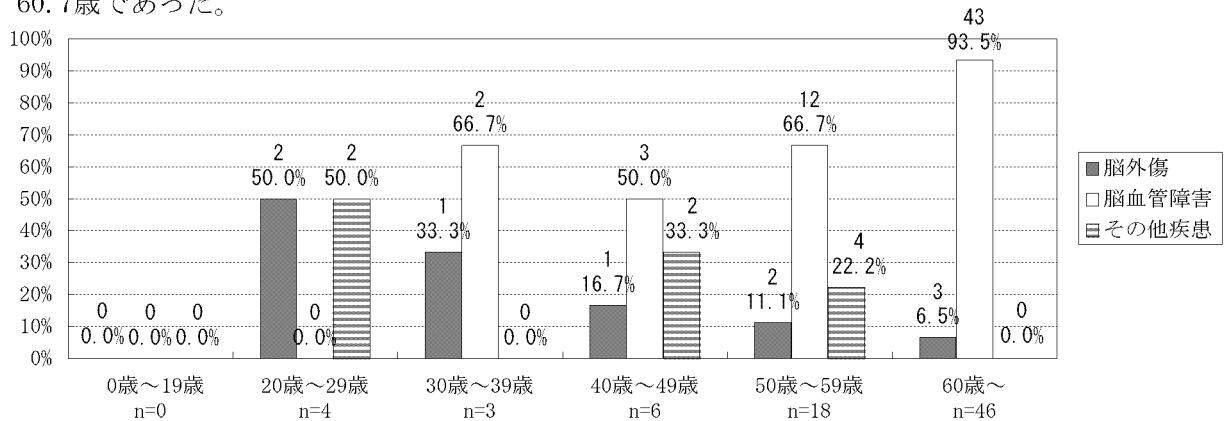
① 高次脳機能障害の原因疾患

高次脳機能障害となった原因疾患は、脳外傷が9人（11.1%）、脳血管障害が64人（79.0%）、その他疾患が8人（9.9%）であり、脳血管障害が一番多かった。



② 年齢別の原因疾患

年齢別の原因疾患をみると、30歳以上では脳血管障害が多かった。平均発症（受傷）年齢は60.7歳であった。

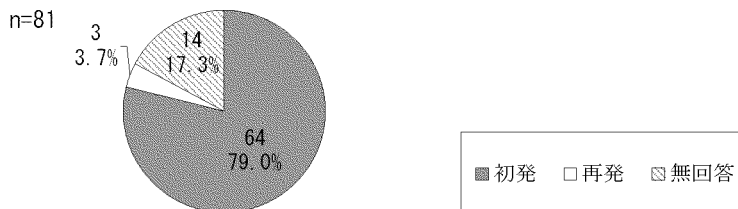


※原因疾患が複数の場合は、それぞれに人数をカウントしている。

※複数回答

③ 初発・再発

高次脳機能障害に至った原因である脳損傷の発症（受傷）は、初発が64人（79.0%）、再発が3人（3.7%）であった。



(7) 発症（受傷）時の意識レベル

① JCS

JCSは、回答があった10人のうち軽度が5人（50.0%）、中等度が1人（10.0%）、重度が4人（40.0%）であった。（無回答：71）

② GCS

GCSは、回答があった12人のうち軽度が7人（58.3%）、中等度が2人（16.7%）、重度が3人（25.0%）であった。（無回答：69）

③ 意識状態

意識状態は、回答があった12人のうち昏睡が6人（50.0%）、錯乱が1人（8.3%）、清明が5人（41.7%）であった。また、半昏睡の方はいなかった。（無回答：69）

④ 意識障害持続時間（開眼し相手がわかるまでの時間）

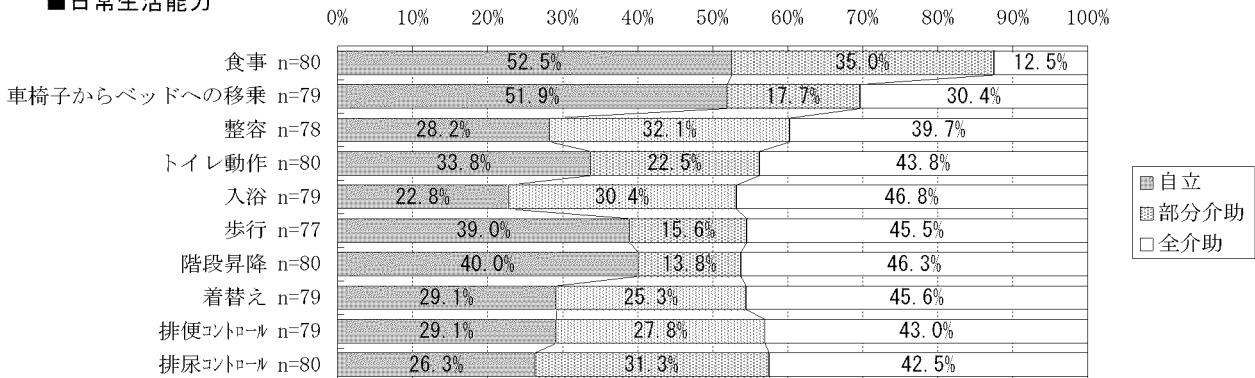
意識障害持続時間は、昏睡なしが2人であった。（無回答：79）

(8)現在の状態

①日常生活能力

日常生活能力は、食事、車椅子からベッドへの移乗については、約半数が自立しているが、その他の日常生活においては半数以上が部分介助もしくは介助を必要としていた。

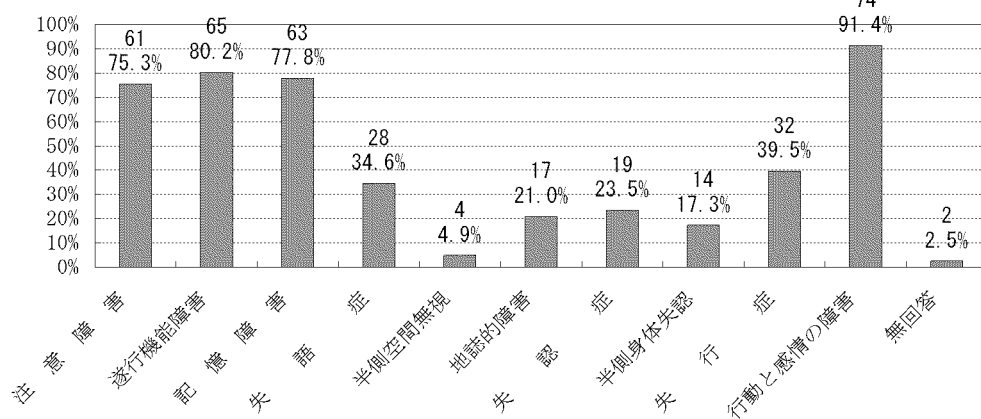
■日常生活能力



②高次脳機能障害

高次脳機能障害の内容として、行動と感情の障害が74人 (91.4%) で一番多く、次いで遂行機能障害が65人 (80.2%)、記憶障害が63人 (77.8%)、注意障害が61人 (75.3%) であった。

n=81

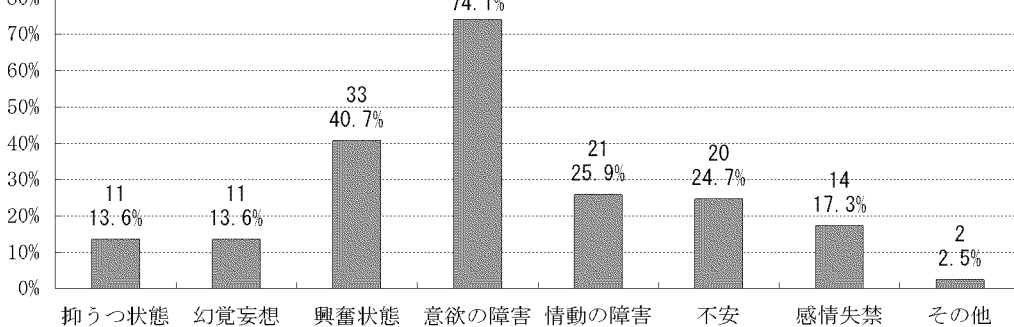


※複数回答

③行動と感情の障害

行動と感情の障害の内容として、意欲の障害が60人 (74.1%) で一番多く、次いで興奮状態が33人 (40.7%) であった。

n=81

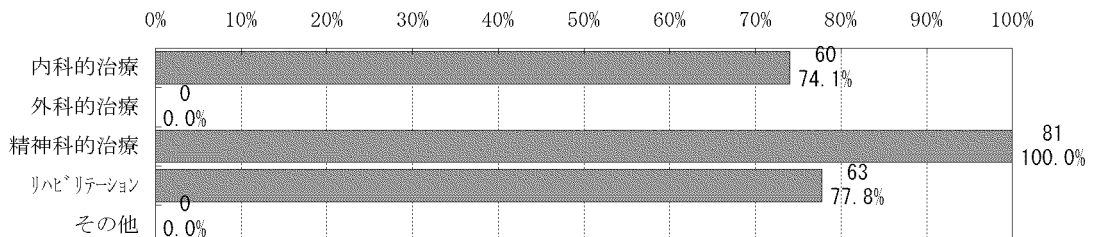


※複数回答

(9)入院中の治療

入院中の治療は、精神科的治療が81人 (100.0%) で一番多く、次いでリハビリテーションが63人 (77.8%) であった。

n=81



※複数回答

3. 退院患者調査

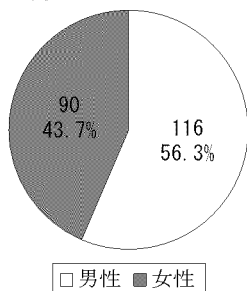
ここでは、脳損傷（脳外傷、脳血管障害など）を主たる理由として入院し退院した患者の入院時の状況、後遺症の状況、退院後の施設等の行き先を把握する。

また、この章における患者は、退院時点では症状・障害の診断がされていない患者も含まれている。

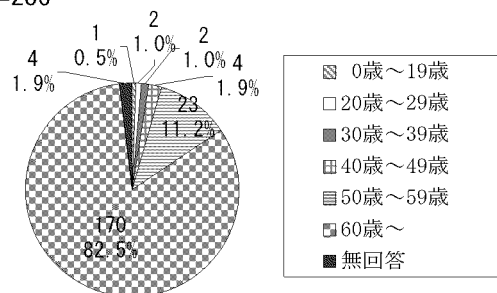
(1) 性別と年齢

性別は男性が116人（56.3%）、女性が90人（43.7%）であり男性の方が多かった。年齢別でみると60歳以上が170人（82.5%）で多かった。また、平均年齢は72.6歳であった。

■性別 n=206

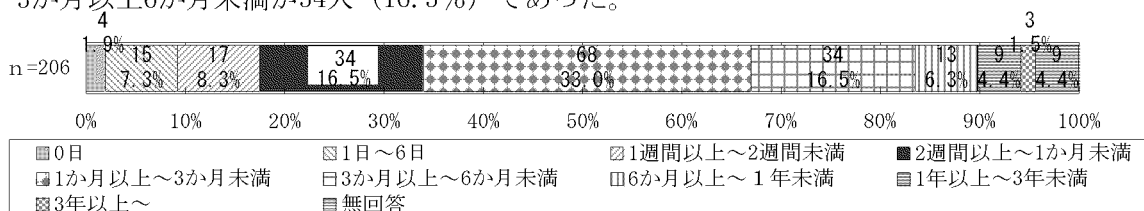


■年齢 n=206



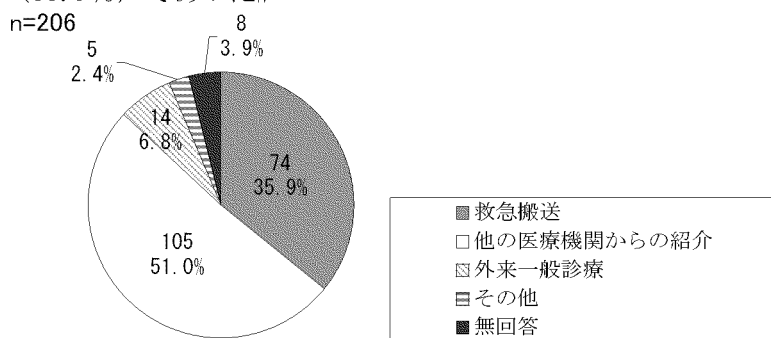
(2) 入院期間

入院期間は1か月以上～3か月未満が68人（33.0%）で多く、次いで2週間以上～1か月未満及び、3か月以上6か月未満が34人（16.5%）であった。



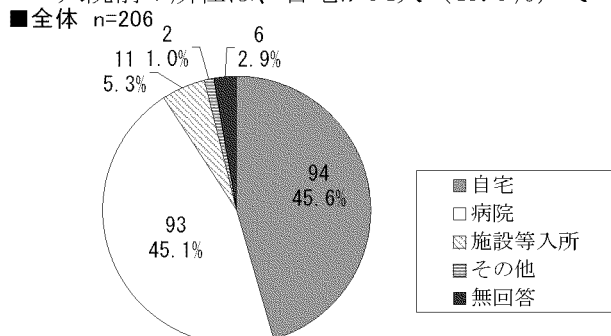
(3) 入院経路

入院経路は、他の医療機関からの紹介が105人（51.0%）で一番多く、次いで救急搬送が74人（35.9%）であった。



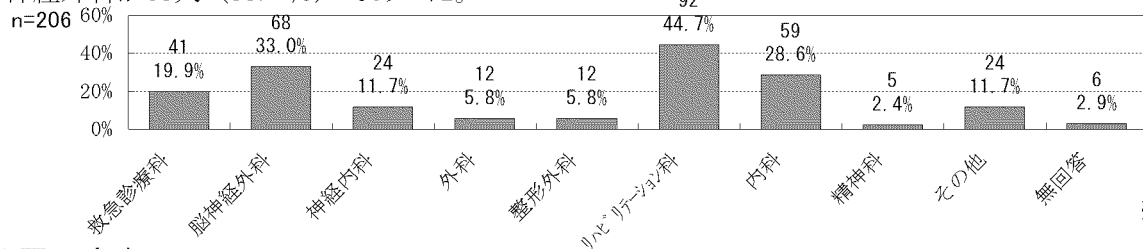
(4) 入院前の所在

入院前の所在は、自宅が94人（45.6%）で一番多く、次いで病院が93人（45.1%）であった。



(5) 入院期間中に受診した診療科

入院期間中に受診した診療科は、リハビリテーション科が92人（44.7%）で一番多く、次に脳神経外科が68人（33.0%）であった。

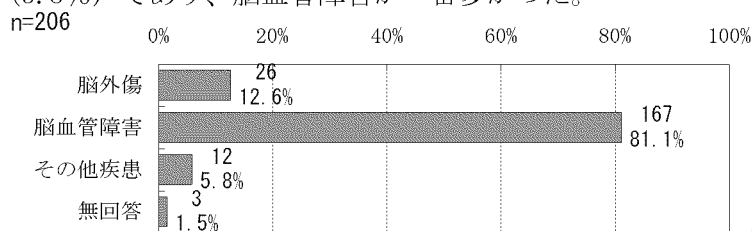


※複数回答

(6) 原因疾患

①原因疾患

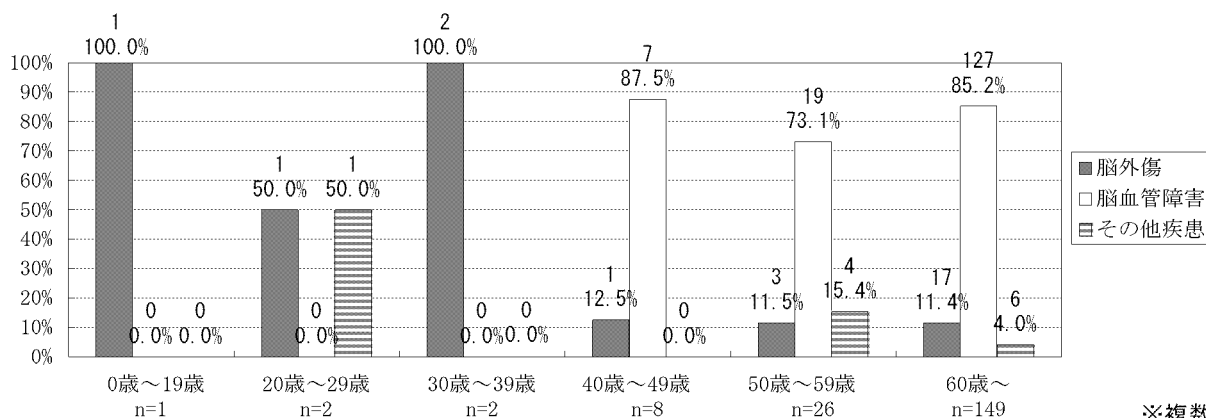
原因疾患は、脳外傷が26人（12.6%）、脳血管障害が167人（81.1%）、その他疾患が12人（5.8%）であり、脳血管障害が一番多かった。



※複数回答

②年齢別の原因疾患

原因疾患を年齢別にみると、39歳以下は脳外傷が多く、40歳以上については脳血管障害が多かった。また、平均発症（受傷）年齢は70.5歳であった。

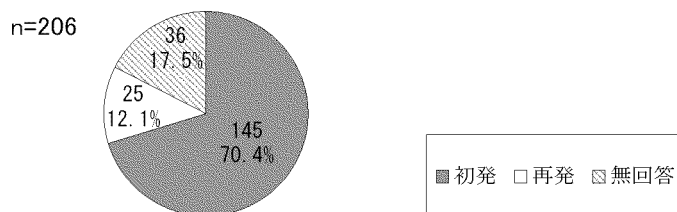


※複数回答

※原因疾患が複数の場合は、それぞれに人数をカウントしている。

③初発・再発

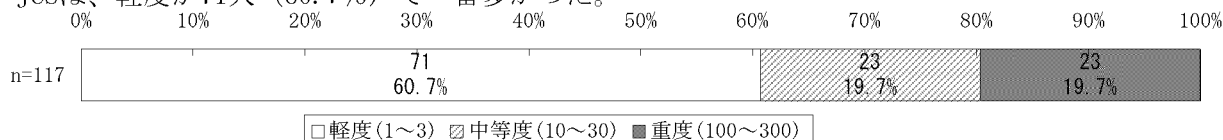
脳損傷の発症（受傷）は、初発が145人（70.4%）、再発が25人（12.1%）であった。



(7) 発症（受傷）時の意識レベル

①JCS

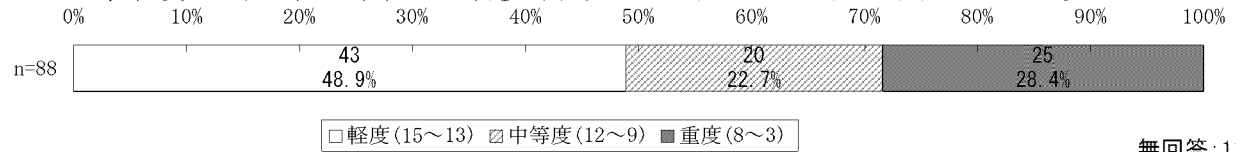
JCSは、軽度が71人（60.7%）で一番多かった。



無回答: 89

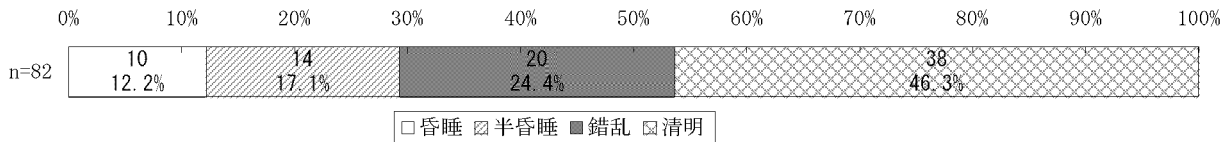
②GCS

GCSは、軽度が43人（48.9%）で一番多く、次いで重度が25人（28.4%）であった。



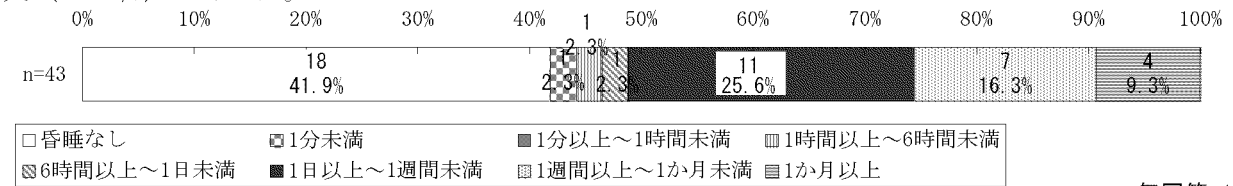
③意識状態

意識状態は、清明が38人（46.3%）で一番多く、次いで錯乱が20人（24.4%）であった。



④意識障害持続時間（開眼し相手がわかるまでの時間）

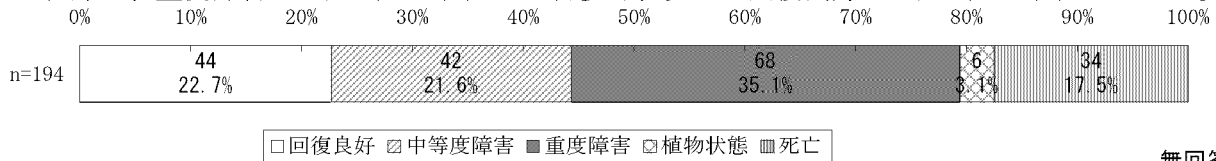
意識障害持続時間は、昏睡なしが18人（41.9%）で一番多く、次いで1日以上～1週間未満が11人（25.6%）であった。



(8) 退院時の状態

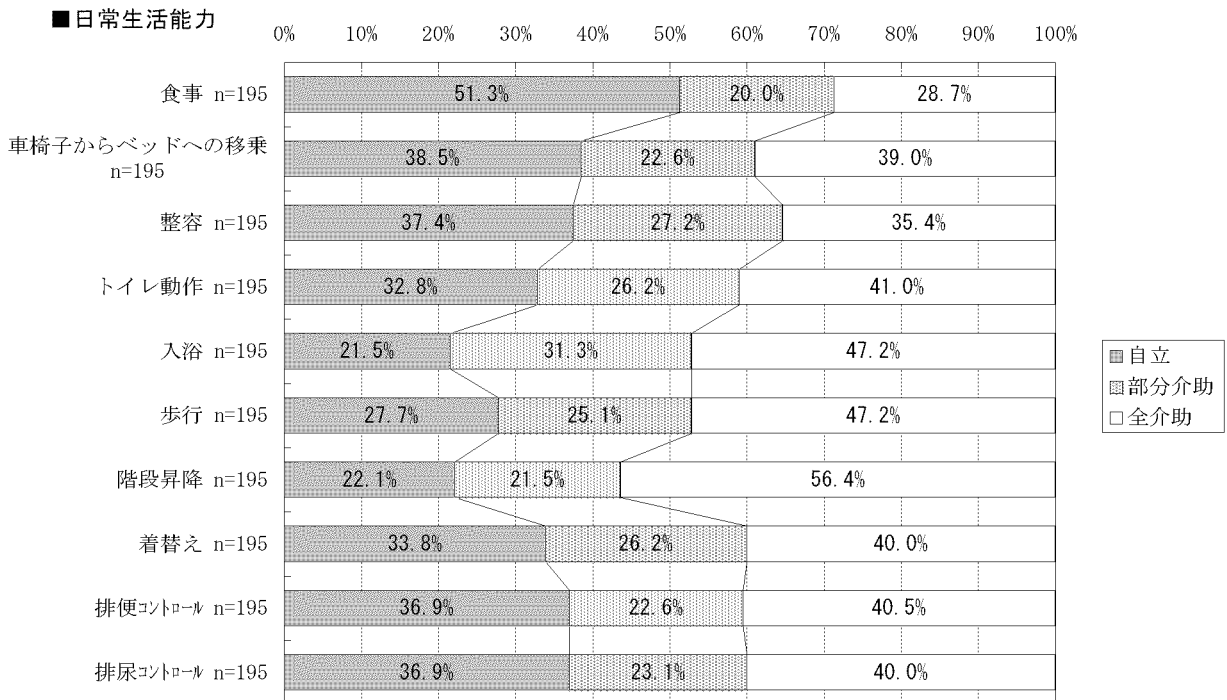
①転帰

転帰は、重度障害が68人（35.1%）で一番多く、次いで回復良好が44人（22.7%）であった。



②日常生活能力

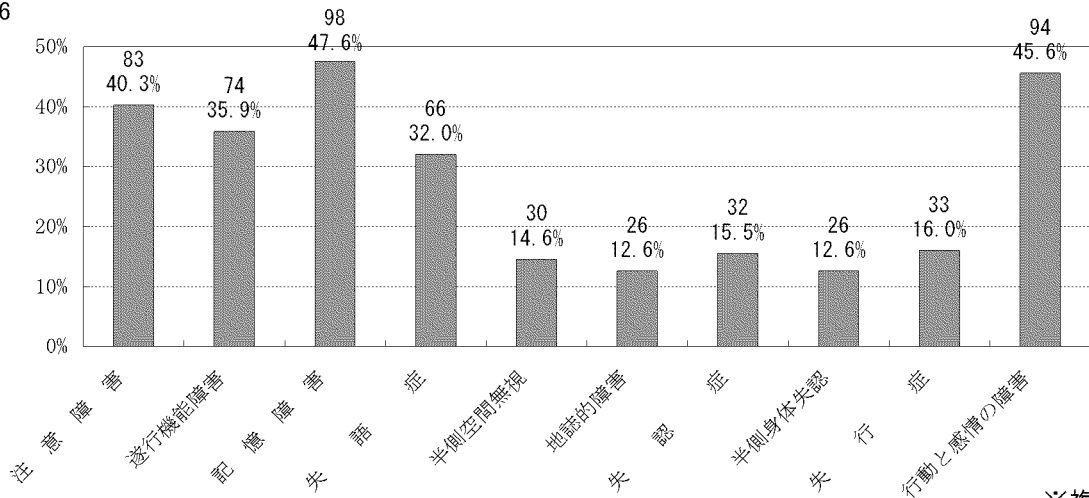
日常生活能力は、食事については、半数が自立しているが、その他の日常生活においては半数以上が部分介助もしくは介助を必要としていた。



③高次脳機能障害

高次脳機能障害の内容として、記憶障害が98人（47.6%）で一番多く、次いで行動と感情の障害が94人（45.6%）、注意障害が83人（40.3%）であった。

n=206

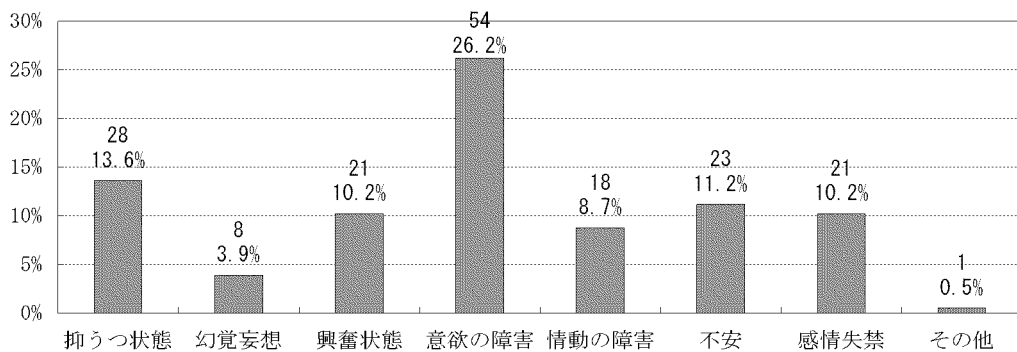


※複数回答

④行動と感情の障害

行動と感情の障害の内容として、意欲の障害が54人（26.2%）で一番多く、次いで抑うつ状態が28人（13.6%）であった。

n=206

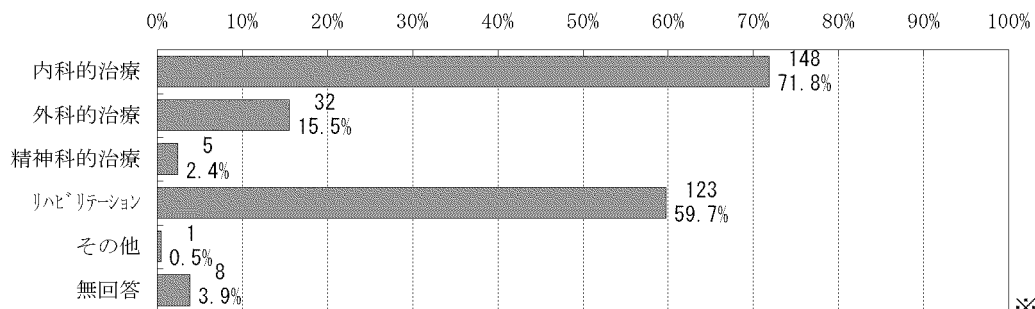


※複数回答

(9)入院中の治療

入院中の治療は、内科的治療148人（71.8%）が一番多く、次いでリハビリテーションが123人（59.7%）であった。

n=206



※複数回答

(10)退院後の行き先

退院後の行き先は自宅が79人（38.3%）が一番多く、次いで病院が64人（31.1%）であった。

■全体 n=206

